

光の子



No.156 2012.12.25

●年間聖句 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。

(ルカによる福音書19章10節)

クリスマスおめでとうございます。

皆さまのお支えに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家



「クリスマス ファンタジー」

挿絵・中島由起子

「どの子にも」

とほく泣く赤子の声も雁のころ

わざうたに秋夕焼のひろがれり

畦をゆく子が二三人秋まつり

胡桃割れば遠いむかしが甦る

いきいきと子どもが通る霜の朝

雀ゐて老人がゐて冬日向

どの子にも濃き影ついてクリスマス

黛

執

(「春野」主宰)

ユキと私がK幼稚園に通うようになつて、1ヶ月半が過ぎた。まだ通園施設であるA園に籍は置いているが、来春予定されるK幼稚園への正式入園の準備期間として、秋から併用通園を開始した。

いくつかの幼稚園を当たつた中で、障害を持つユキを快く受け入れてくれたのが、このK幼稚園だつた。幸い自宅から徒歩で通える距離で、その上、全園児数80名という小規模な園であつたことはありがたかった。こじんまりとしたアットホームな雰囲気がユキには合つていたようで、何の警戒心も抱くことなく、すんなりと通い始めることができた。

ユキは年中クラスの「ひまわり組」に入った。クラス構成はユキを入れて女の子が9人、男の子が16人、おしゃまさんもわんぱく君もいて、みんな元気いっぱいだ。クラスをまとめているのが担任のA先生。太陽みたいに明るくて、とても頼もしい先生である。

園長室で初めてA先生にお会い

したとき、以前先生が、重度の自閉症児を受け持つた経験があることを話してくれた。

「いろいろ大変なこともありますが、本当に可愛い子でした。とても楽しかったです」

先生のこの言葉を聞いて、私はA先生にユキを託そうと決心した。初めて登園した日、A先生は子どもたちにユキのことをこんなふうに紹介してくれた。

「ユキちゃんは字を読んだりみんなのお名前を覚えたりするのはとても得意です。でもお話しすることが苦手です。みんなが声をかけたときに、お返事してくれなかつたり、知らんぷりしていることがあるかもしれません。でも、みんなのことが嫌いだからじゃないんだよ。みんなのお話が分からなくて、お返事できないときがあります。だからみんなは、そんなときユキちゃんにぶんぶん! つてしまつたりして、真剣そのものだった。

先生の話を聞く子どもたちの眼差しは、ユキちゃんが困っていた「もし、ユキちゃんが困つていた」と聞いて、お返事してくれなかつたりして、真剣そのものだった。

私は、枕もとに「カタカナ語辞典」というのを置いていた。時々、わからぬ言葉や、あいまいな理解しかできない言葉について調べたりする。そして「ははあ、そんな意味だったのか」と、一時的にわかつたつもりになる。そして、すぐ忘れてしまうのだが。そう。言葉といえば思い出した。大分前のことになるが、何人かの人と雑談をしていたとき、或る、社会的にも立派な人が「イッキイッカイ」と何度も言うのである。はじめは何のことだろと思つたが、「一期一会」のことを言つていたのである。

豊かな、美しい日本語の大部分を知らず、とに角、何とか必要最低限の日本語で、その場をしのいできたということになろうか。考えてみれば、もつたない話

ら、みんなはどうしますか?」子どもたちは声を揃えて答えた。

ユキはこうして、ひまわり組のお友達に迎え入れられた。子どもたちは、コミュニケーションの取りにくくユキの言動に戸惑いつつも、ユキの登園日を楽しみに待つててくれるようになった。

ユキはひまわり組が大好きになるとともに、楽しめた。お友達の名前も次々に覚えていた。一緒に遊ぶことは難しくても、お友達の真似をしてとんだり跳ねたり走ったり、滑り台を数珠つなぎになつて滑つたり、松ぼっくりや団栗を分けてもらつたり。それだけ十分楽しそうだった。

12月に入ると、A先生から「そうぞろ母子分離をしてみましょう」と提案を受けた。正直不安はあつたが、いつまでも私がユキの傍にべつたりと張り付いているわけにはいかなかつた。

分離開始の日。教室の入り口で、私はユキの顔を覗きこんでこう言つて聞かせた。

「今日からお母さんは、ひまわり組にいません。先生の言うことをよく聞きます。先生に協力します。お友達と仲良くします。」

お帰りになるのを見とどけて、その姿が見えなくなつても、師匠はその場で動かない。弟子は、不思議に思つて「もうお客様はお帰りになりましたのに、部屋にもどらないのですか。」とたずねた。

お師匠は言つた。「一期一会」という言葉があるだろう。私は、あのお客様の下駄の音が聞こえなくなるまでお見送りするのです。あなたがお帰りになつたのに、お帰りになつた。

お弟子さんは納得した。

日本語のもつ豊かで深い意味を感じた、というのである。これがK君の話してくれたことであつた。

一生に一度の良い出会いを大事にしたい。

ついてくれた。私は子どもたちの氣が散らないように、窓の外からそつと中の様子を見守つていた。

この日のクラス活動は、クリスマス・リース作りだつた。折紙を指で細かくちぎり、真ん中をくり抜いた丸い紙皿に糊で貼り付けていく。すぐに飽きて立ち歩きを始めたのではとヒヤヒヤしていたが、私の心配をよそにユキは丸1時間、一度も席を立たなかつた。先生やお友達の助けを借りながら、最後のリースが次々に飾られていつた。先生やお友達の名前も次々に覚えていた。一緒に遊ぶことは難しくとも、お友達の真似をしてとんだり跳ねたり走つたり、滑り台を数珠つなぎになつて滑つたり、松ぼっくりや団栗を分けてもらつたり。それだけ十分楽ししそうだった。

珠つなぎになつて滑つたり、松ぼっくりや団栗を分けてもらつたり。それだけ十分楽ししそうだった。

12月に入ると、A先生から「そうぞろ母子分離をしてみましょう」と提案を受けた。正直不安はあつたが、いつまでも私がユキの傍にべつたりと張り付いているわけにはいかなかつた。

分離開始の日。教室の入り口で、私はユキの顔を覗きこんでこう言つて聞かせた。

「今日からお母さんは、ひまわり組にいません。先生の言うことをよく聞きます。先生に協力します。お友達と仲良くします。」

お帰りになるのを見とどけて、その姿が見えなくなつても、師匠はその場で動かない。弟子は、不思議に思つて「もうお客様はお帰りになりましたのに、部屋にもどらないのですか。」とたずねた。

お師匠は言つた。「一期一会」という言葉があるだろう。私は、あのお客様の下駄の音が聞こえなくなるまでお見送りするのです。あなたがお帰りになつたのに、お帰りになつた。

お弟子さんは納得した。

日本語のもつ豊かで深い意味を感じた、というのである。これがK君の話してくれたことであつた。

一生に一度の良い出会いを大事にしたい。

「共育ちカンガルーデイ記」

(21) ひまわり組

近藤みちる

小学生の楓と一緒におしゃべりをしているかのようにしつかりした受け答えをすることに驚かされたことがあります。先日も、「ママは何でこの仕事を始めたの?」

楓も大きくなつたらここシロイシ(指導員)になろうかな?」「ここママはどれくらいのトラブルを抱えてるの?」と楓。今まで、ここで働いていた理由を聞かれることはたびたびありました。が、トラブルについて聞かれるとは……。正直ドキッとします。

「大きいトラブル、小さいトラブルがいくつあっても、それをどうやって解決するか考えて、解決していくことが大切なんだよね……」と答えることしかできませんでした。こちらが考えていること、伝えていることをものすごいスピードで吸収している姿が見られます。

牧野 由紀子

☆最後のメリークリスマス☆

今年は僕にとって光の子どもの家で迎える最後のクリスマスになります。小学生の頃からずっとクリスマスの夜はイエス様の誕生の様子を劇にしたペーパージェントをやっています。今年はイエス様のお父さんのヨセフ役です。前にもやつたことがあるので、前よりうまくやれるように練習します。最後のペーパージェント、観てくれる人を感動させたいです。

高三 清貴

光の中で

佐藤家

めつきり寒くなり、外のイルミネーションも綺麗に輝き、星空も澄んでいる今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

10月には幼稚園の運動会がありました。詩音も真理も一生懸命に走つたり踊つたりと、見ているこちらは大感動。すばらしいプレゼントをもらつたような気持ちになりました。

11月には光の子どもの家の感謝の集いがありました。日頃から光の子どもの家を支えて下さっている方々が、たくさん来訪してくださいました。本当にありがとうございます。

季節のおとずれ 竹花家

☆クリスマス……でも受験生☆

クリスマスおめでとうございます。私は今年受験を控えています。

だんだん成績が上がってきて志望校も合格圏内になりました。でも油断大敵とこないだの三者面談で言われました。自分でもそう思いました。

クリスマスもお正月も楽しみたいですが、受験がある今年はちょっと我慢して、合格に向けて頑張ります。

河のほとりで 倉澤家

中三 綾

☆クリスマスソングセントのショーウィンドウがクリスマスのディスプレイに変わり、イルミネーションで街がにぎやかになりました。この時期になると、食卓でクリスマスペーページェントが話題になります。「今年は誰がマリア?」「高校三年生の女の子がいないから高校二年生じゃない?」中・高生は男子の人数が少ないから、宝塚

クリスマスもお正月も楽しみたいですが、受験がある今年はちょっと我慢して、合格に向けて頑張ります。私は今年受験を控えています。クリスマスおめでとうございます。私は今年受験を控えています。

河のほとりで 倉澤家

中三 綾

デパートやショッピングセンタのショーウィンドウがクリスマスのディスプレイに変わり、イルミネーションで街がにぎやかになりました。この時期になると、食卓でクリスマスペーページェントが話題になります。「今年は誰がマリア?」「高校三年生の女の子がいないから高校二年生じゃない?」中・高生は男子の人数が少ないから、宝塚

みたいに女子がヨセフやつてみる!」など、先日の夕食時にはペー

ジェントの配役について盛り上がりました。

中・高生になると無難な聖歌隊や聖書朗読に人気が集中。倉澤家の三人娘も、どうやらそのポジションを狙っているようです。歌が

セルフイメージの高くない彼に自信をつけてほしい……という担当者の願いもあります。広司本人は満更でもない様子で「どなたじやう」と、宿屋の歌を口ずさんでいました。

配役の発表は、毎年第一アドベントの夕食会で行われます。さて、広司は宿屋の主人役を手に入れることができるのでしょうか?

答えは、光の子どもの家クリスマスペーページェントで……。

倉澤 智子

子どもたちの季節 仙道家

みたいに女子がヨセフやつてみるかがお過ごしでしょうか。

大人はすでに朝晩の寒さに震えていますが、子どもたちは元気いっぱいに走り回っています。

11月末には小学校で持久走大会が開かれます。それに向けて練習を始めたのは利生と正太郎。利生は昨年2位でなんとかリベンジを果たしたいところですが、ライバルは運動神経抜群のスーパーマン。

練習中の表情は真剣そのものです。正太郎は1年生なので初めての大会です。走るのは得意ではあります。が、それが何よりも頑張るから!」と意欲は人一倍です。

みんなが1番になれば良いのですが、そういうわけにはいかないのが勝負の世界。結果はどうあれ、私にとつては君たちの頑張りと笑顔が一等賞だよ!と、精一杯応援していきたいと思います。

和田 優右子

ぐに落ちるのでいい気持ちでいらっしゃいます。今年もやりたいです。

小六 史乃

原田家日記

冬本番の装いの今日この頃、いろいろな行事があります。今年もやりたいです。

英恵、智司、亮は1階の6畳で担当とともに布団をいっぱいに拡げ5人で寝起きしています。人口密度が高く、ぎゅうぎゅうで暑くて寝苦しい夏を乗り越えましたが、今ではすっかり寒くなり、ぎゅうぎゅうさが温かく、むしろ安心する季節を迎えることができました。

高校生で1人部屋を提供できた早希を除き、工藤グレープの保加、英恵、智司、亮は1階の6畳で担当で、毎月のお誕生会では必ず出し物をせずにいられません。ペーパージェントの配役は気になつてしまふがないことでしょう。

保加はここに来て数ヶ月が経ち、楽しいことばかりではなく悔しいこと、寂しいこと、様々なことを経験してきました。一番そばにいるながら、まだまだ未熟者の担当で日々申し訳なく思います。そんな彼女はもちろん一人一人がクリスマスの温かい光に包まれ一緒に温かい思い出をまた一つ作れたらと思います。

和田 優右子

うがクリスマスソングを担当が口ずさむと「もう1回!もう1回!」とねだり、うれしそうに聞いています。一方保加にとつては一大事です。なにせ出し物が大好きな保加で、毎月のお誕生会では必ず出しどもをせずにいられません。ペーパージェントの配役は気になつてしまふがないことでしょう。

担当を含め、今年度になつてから光の子の一員になつた亮と保加にさせてくれるかわいい子どもたちです。担当を含め、今年度になつてから光の子の一員になつた亮と保加にさせてくれるかわいい子どもたちです。

1月には片腕を取り合っています。

「久恵さん、あつたか~い

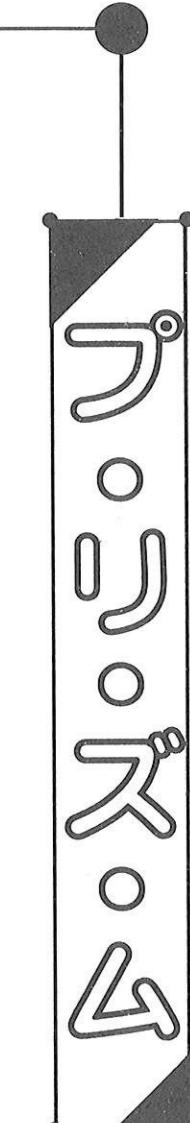
かわいらしい甘えた声でこんな一

言を言われるだけで幸せな気持ちになります。

私

私はクリスマスに楽しみなことがあります。それはサンタクロースからプレゼントをもらえることです。2才の頃、サンタさんに抱っこしてもらいました。

クリスマスが終わると、楽しみなのは大掃除です。ガスコンロを菌ブランでこります。汚れがす



養育論の試み その6 クリストスマス

菅原 哲男

クリスマスの語源はラテン語で、christos=キリストと云う語からなっているという（三省堂語源辞典）。

先の大戦に敗戦した後、激流のように入り込んだアメリカ文化の中で、とりわけこのクリスマスは何をやつてもいい日、というような誤解を持ち込んだまま現在に至っているようだ。ごく一部のアメリカ兵による欲求不満を占領意識に重ねて何もありの傲慢無礼は、今も沖縄から報じられ続けている。その様なドンチャン騒ぎは論外でも、クリスマスは、語源からかけ離れたイメージを持つものがこの国に多い。

児童養護施設光の子どもの家では、クリスマスを、この家でもっと大事なものとして執り行い、味わい楽しんできたものである。もっとも尊い者が最も汚れた家畜小屋で生まれたという内容を持つ物語性。この日が西暦の起源になっていたという歴史性。そして子どもが育つのになくてはならないファンタジー性などなどである。

光の子どもの家では、遠く湯河原

の国有林まで出かけてモミの枝をもう一枝、子どもたちに見つからないようにその枝で、クランツやリースを作つて第一アドヴェントの朝を飾つた。第一アドヴェントの夕べをクランツに灯した1本のローソクを廻んでもらう。クリスマス聖誕劇の配役を発表してクリスマス当日に備えて準備を始めるのである。

この4週間は、毎週1本ずつ灯すローソクを増やして光を増していく。

そのクランツを見上げて胸を膨らませる子どもたち。

職員はここに何をしに来たのか、そして何をなしえたか、また何をし残したのかを振り返り、自らの内面と向き合いながら、子どもたちに送るべきメッセージを練り上げていく。

クリスマスに子どもたちはプレゼントを期待する。プレゼントにはメッセージが欠かせない。メッセージがなければ単なるものやり取りに過ぎないのである。間違えて必要以上に買つてしまつたものをほしい人におけるのもプレゼントといえるかもしれない。しかし、プレゼントは

差し上げる相手に伝えたいメッセージがあつて成り立つものだろう。愛する相手にその愛を強化して伝えるためにこそプレゼントの意味はある。だから担当を持つ職員は子どもへのメッセージを用意する。それを作るためには、子どもが伝える担当者へのメッセージを用意してプレゼントを準備する。

そのように用意されたメッセージは、子どもが伝える担当者へのメッセージとともに、クリスマスイヴのキャンドルサービスで、讃美歌やクリスマスソング、聖書朗読などの合間に、作り手が読みあいながら伝えていくのである。

用意されたプレゼントは、クリスマスイヴの夜半、寝入った子どもたち一人ひとりの枕元に、サンタクロース扮した大人が届ける。寝入つた子どもがぼんやりと目を開けて、サンタクロースを見て夢うつにまた寝入る。小学低学年まではサンタクロースの存在を信じるものである。

毎日のように讃美歌をうたい、イエス生誕の次第を演じる練習を繰り返し、礼拝を重ねてやつと成立するファンタジーなのである。

12月25日の夜は、子どもたちの家マスイヴの夜半、寝入った子どもたち一人ひとりの枕元に、サンタクロース扮した大人がぼんやりと目を開けて、寝入つた子どもがぼんやりと目を開けて、サンタクロースを見て夢うつにまた寝入る。小学低学年まではサンタクロースの存在を信じるものである。それを光の子どもの家のファンタジーとして育てるよう願つてきた。

クロースの存在を信じるものである。

そして祝会へと続き、夜半まで祝うのである。このときに子どもたちの心は躍り、気分は高潮するのである。何かしら、生まれてきたことを肯定できそうな、したいような、そして希望のような、そんな人もいる。心持ちがすると、卒園して社会に入った者たちが言つていたことがあった。それがファンタジーの人になつた者たちが言つていたことがあつた。それがファンタジーのもう一つ力なのだろうと思うのである。

熱望していた普通の家族との暮らしをうすぐと諦めさせられつつある子どもたち。最もよい時間を占める学校という、近代合理主義の塊のような「教育」を受けて比較される子どもたち。

そんな子どもたちが、自分の生まれたことを受容し、家族の限界を確かめながら受け入れ、未来への、希望の可能性を作るためのクリスマス教育機関によつて決定されてしまう子どもたち。

そんな子どもたちが、自分の生まれたことを受容し、家族の限界を確かめながら受け入れ、未来への、希望の可能性を作るためのクリスマス教育機関によつて決定されてしまう子どもたち。

続・光の子らしく

岩崎まり子

現場から

クリスマス、おめでとうござります。

冬の星空の下では何もかもが流れ渡り、ここ大利根の地は時折走る列車の音が響くくらいの静けさが広がっています。そんな空気にふれながら夜空を見上げたとき、ふと遠くどこかで誰かが、この空を駆けていても不思議じゃないな……と思えます。

皆さま、お元気ですか。
「まり子さん、もし魔法が使えたら何したい?」
湯船につかってフーッと一息。
やっぱりおふろは気持ちいいねえ、などと言い合っていた時に、小学

「クリスマス、おめでとうござります。
今年も大きな荷物とかかえてサンタクロースがたくさん

生の保奈美ちゃんが尋ねてきました。
「保奈美ちゃんは?」
「保奈美はね、ドラゴン飼いたい!あと、空を飛びたい!あとはね、家に帰りたい。ふふふ。」
彼女の最後の、愛想笑いのようないつらうような笑いは癖のようですが、そうやって自分を守つてゐるのかな、と考えていたのですが、

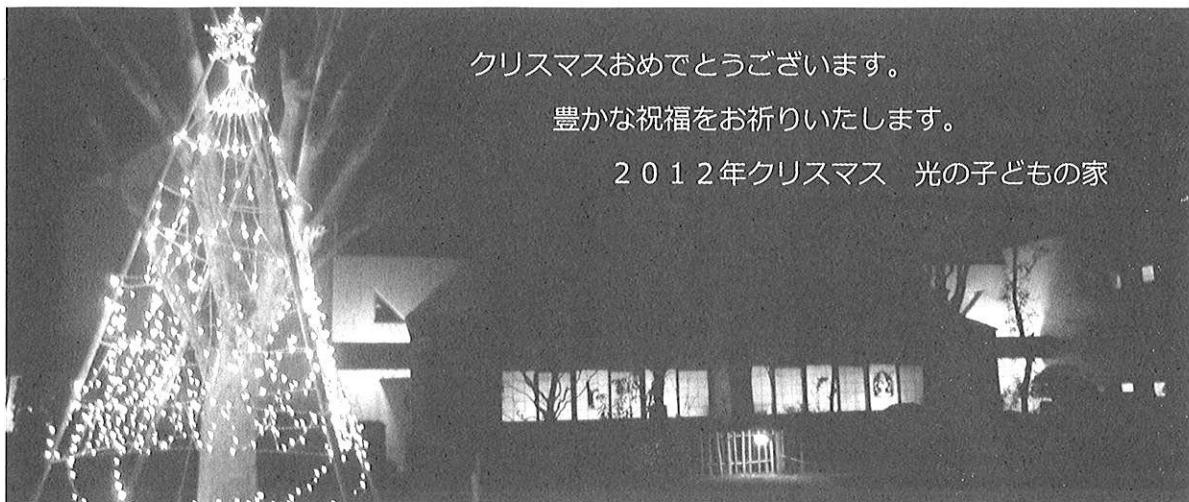
最初のうちには、本心を言ったときに拒否されたり、否定されたりしても、自身が傷つかないようにする術なかな、相手を怒らせたり悲しませたりすることのないよう

だけでもないようです。彼女とのここで生活がまだ浅いということもあるのでしょうか。彼女は、本心の見えにくい子どものように感じています。いつも大人の顔色を見るような、おかしくもないだろうに笑つてみたり、「〇〇どうだった?」と尋ねると、反射のように「楽しかった!」と言つてみたり……。何か大人受けを計算しているような、そんな印象を受けてしまいます。そのため私は悲しくなります。

先日の連休、ご家族で外出した際のビデオを親御さんが見せてくれたことがあります。お母さんの声が尋ねました。

「今日は出掛けたどうだったですか?」
すると、急に保奈美ちゃんは飛び





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2012年8月～9月

2012年8月現在

幼児4名 小学生16名 中学生8名 高校生7名 計35名

- 1日 人数の多い小学校1年生が白根山登山へ 初めての山登りで全員が山頂まで登り切った みんなの頑張りに称賛の嵐
- 6日 お盆のおでかけ湯河原へ 去年は震災の影響で出来なかつた海水浴を思い切り楽しむことができた感謝
- 8日 お盆のおでかけ蓼科へ 暑い埼玉とは違つて涼しさのある夏を満喫できた 感謝
- 11日 お盆のおでかけ秋田へ 世界遺産白神山地を観に行つたがあいにくの雨 晴れの日には海で目一杯遊んだ 感謝
- 20日 東大宮教会学校中高科の2泊3日震災復興ボランティアに参加 気仙沼で被災された方々の当時の話をお聞きしたり津波で破壊された海水浴場の清掃ボランティアなど貴重な経験ができた 感謝
- 24日 聖学院大学ワーク
- 30日 夏休みさよならパーティ 2学期に向けての準備を整えて夏休みはまた来年ということで大人も子どもも目標高く気を引き締める
写真家福島力様が今年も全員のポートレイトを撮影

して下さる 感謝

- 9月
- 3日 二学期始業式
- 5日 渡部かずき記念礼拝 もう20歳になる同級生たちが今年も多数集まってくれた 感謝
- 8日 第99回光の子どもの家理事会
- 10日 JCHIPインターンシップ生のトムとマイクさよならパーティー 光の子どもの家で過ごした2ヶ月間をみんなで振り返る アメリカに戻っても頑張ってほしい
- 15日 小学校運動会 得意でも苦手でも一生懸命に取り組む子どもたちの姿が見られた 応援するわたしたちも熱が入る
- 23日 中学校運動会 普段はナナメを向きがちな思春期の子どもたちだが行事のなかで普段とは違う一面を見てくれた
- 28日 職員礼拝に若月健吾牧師來訪 司式説教奉仕感謝
<8月9月の物品ご寄贈者さま>
- 浜田文昭 杉山和俊 篠崎シヅ 戸苅和美 角尾和子 後藤利子 松井知恵子 松本明子 島野常一 神田まさよ 福島章
社会福祉法人福利厚生センター 大鹿 大橋清栄 金原二郎
他多数の各位さま
- ☆今年の夏休みも本当に多くの方々にお世話になりました 有難うございました (洋)

/// ————— / 反 射 光 ————— //

☆光の子どもの家がある大利根の地は、冬の星空が澄み渡つて綺麗な所です。子どもたちと寒さの中で見上げる夜空はとりわけ格別に映ります。☆クリスマスおめでとうございます。今年もこうして皆さんにご挨拶できることを感謝しております。先月には日頃から格別のご支援をいただいている皆さまをご招待して「第28回感謝の集い」を行いました。お世話になつていてる方に私たち職員が直接感謝をお伝えする機会として大切にしております☆クリスマスは一年の中でも光の子どもの家が最も大切にしている行事です。子どもたちの抱える現実とクリスマスのファンタジー性、その中で送り合う心を込めたメッセージの数々。賑やかな世間にのクリスマスには迎合せず、自身の心の内側に向き合い、新たな一年への心の準備を進めていく大切な季節として迎えます☆普段の生活の中でも言葉にして伝えてこなかつた思いを、12月24日の夜にろうそくの灯りの中へ招待して、翌朝には枕元にサンタクロースからのプレゼントが置いてある。光の子どもの家が最も光の子どもたちも大切に守ります。(洋)